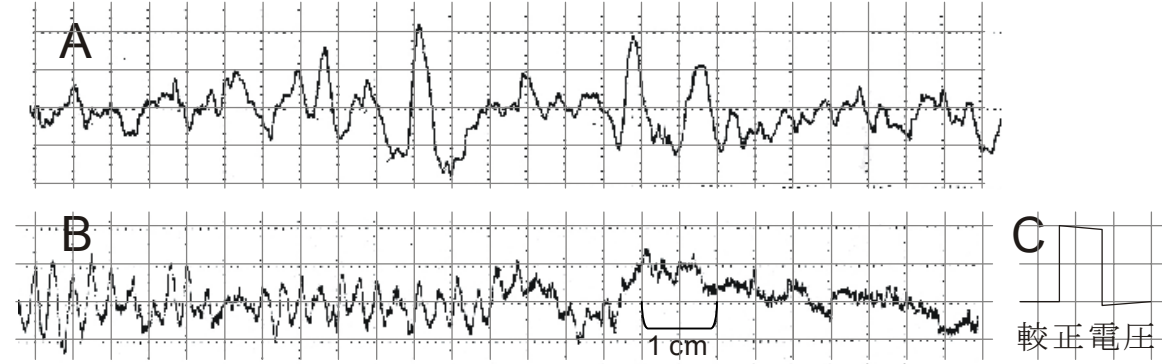


番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

I. 下の図 A-B は今回の実習で記録した脳波、C は校正電圧の記録である。



- 1) 図 A に、横と縦の目盛りを書き入れなさい。図には 5mm 間隔の格子が入っている。(2 点)
- 2) 上のどちらかの脳波記録の一部分で、α波が観察される。α波が連続して出現している部分をマークし、以下の表を埋めてその部分の周波数を求めなさい。何箇所か出ている場合は、どこか一箇所を用いばよい。(3 点)

α波が出現している時間(s)	出現しているα波の周期(周期)	周波数(Hz)

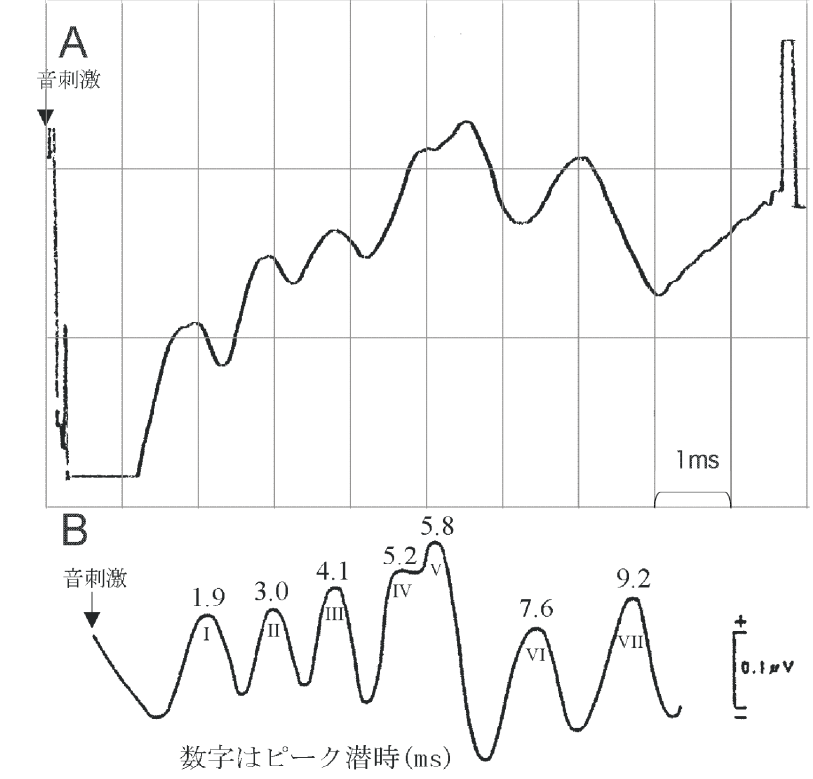
3) 上の波形を記録したときの検査条件は、以下のどの条件か。下線を引いた選択肢の中から、実習で用いた条件を選び、○で囲みなさい。(表は次ページに続く) (2 点)

低域遮断フィルター(Hz)	高域遮断フィルター(Hz)	感度(μV/DIV)	紙送り速度(mm/s)
<u>0.5、5、15、50</u>	30	50	25
電極位置			
導出電極(-)		基準電極(+)	
<u>前額、Cz、C3、Pz</u>		耳朵	

4) A-B はどのような状態で記録した脳波か。最も適当な状態をそれぞれ選び、( ) の中に記号 (A または B) を書き入れなさい。当てはまらない条件には、何も書き入れないこと。(2 点)

- ( ) 被験者は、浅い睡眠状態だった。
- ( ) 被験者は常に安静開眼状態で、記録の中央付近で上向き眼球運動を行った。
- ( ) 被験者は記録の前半部分では安静開眼状態、中央付近で閉眼した。
- ( ) 被験者は記録の前半部分では安静閉眼状態、中央付近で開眼した。
- ( ) 被験者は、歯をかみ締めていた。

II. 下図 A は、実習で記録した聴性脳幹反応である。



- 1) 図 A に、縦軸の目盛りを書き入れなさい。(1 点)
- 2) 図 B の正常波形と比較して、記録中のピークをマーク、その潜時を求めなさい。はっきり認められないピークについては、表中に「不明」と書き入れよ。(7 点)

I 波(msec)	
II 波(msec)	
III 波(msec)	
IV 波(msec)	
V 波(msec)	
VI 波(msec)	
VII 波(msec)	

3) 聴性脳幹反応を記録するのに最も適切な検査条件を、以下の下線部の選択肢から選んで○で囲みなさい。

低域遮断フィルター(Hz)	高域遮断フィルター(Hz)	感度(μV/DIV)	解析時間(s)
5	<u>100、300、1k、3k</u>	<u>10、50、100、1000</u>	10m
電極位置			
導出電極(-)		基準電極(+)	
<u>両耳朵、前額、Cz</u>		<u>両耳朵、前額、Cz</u>	

(4 点)

III. 以下の文章が正しければ○、誤りがあれば×を書き入れよ。(各 1 点)

- ( ) 脳波の電極を貼る前に、皮膚表面の脂や汚れをふき取ることが必要である。
- ( ) 脳波記録中、被験者はまばたきを繰り返し、脳波はδ波が観察された。
- ( ) 国際 10/20 法で決められる Cz という電極位置は、頭の前後方向、左右方向の長さから求めた中心点から、前後方向の長さの 20% 分後頭極に寄った点である。
- ( ) 短潜時の誘発脳波を記録するときには長潜時波形の記録の場合より、high-cut filter、low-cut filter とともに高周波に設定する必要がある。